

大学生における「マンガ」「アニメ」「活字本」の 利用状況の基本調査 その 3

小池 庸生¹⁾

Basic Research on Student' Use of "Manga", "Animation Movies", "Books": Part 3

Nobuo Koike

Abstract

This research presents the third report after the previous ones (Koike, 2014, 2016) . In this research, I focus on students who like "reading manga," "watching animation movies," and "reading books," and pick up titles of "manga, animation movies, and books," then investigate the trend. Looking at the results, the mean value on "like reading manga" was 3.83, "like watching animation movies" was 3.58, and "like reading books" was 3.13, which was similar to previous reports. I divided the students into groups of "like reading manga," "like watching animation," "like reading books" and "dislike" based on the questionnaire, and I examined each of the mean value and the average reaction number of articles. I found that the students in the group, who "like reading manga" like to watch animation, the students in the group, who "like watching animation" like to read manga, and the students in the group, who "like reading books" are like to read manga and to watch animation. These were similar results to previous reports.

Key words: manga, animation, book, reaction number of articles

キーワード：マンガ，アニメ，活字本，作品反応数

1. はじめに

「マンガ」や「アニメ」の流行・隆盛により、若者たちの「活字離れ」が言われ始めてかなり経つ。実際に出版業界の報告でも、活字本の発行は減少してきているが、「マンガ」はかなりの雑誌数が発行されている。また、「アニメーション作品（今後「アニメ」とする）」も、映画やテレビにおいて多くの作品が上映・放映されている。「このマンガがすごい」という本は、2007年に出版され、現在2017年版が出版されている。これ

はその年に話題となったマンガをオトコ編とオンナ編に分けてランキングしている。一連の調査を始めた2013年版から2017年版までの上位5位までのランキングを見てみると次のようになっている。2013年版のオトコ編が「1. テラフォーマーズ」[2. ハイスコアガール] [3. 人間仮面中] [4. ハイキュー] [5. 銀の匙 Silver Spoon] で、オンナ編が「1. 俺物語」[2. 式の前日] [3. きょうは会社休みます] [4. ひばりの朝] [5. かくかくしかじか] であった。2014年版のオトコ編が「1. 暗殺教室」[2. 坂本ですが?】[3. 亜人] [4. 重

1) 育英短期大学現代コミュニケーション学科

版出来!」[5. 七つの大罪]で、オンナ編が「1. さよならソルシエ」[2. ときめきトゥナイト 真壁俊の事情] [3. 月影ベイベ] [4. 日々蝶々] [5. かくかくしかじか]であった。2015年版のオトコ編が「1. 聲の形」[2. 魔法使いの嫁] [3. 子供はわかってあげない] [4. いちえふ] [5. あれよ星屑]で、オンナ編が「1. ちーちゃんはやっと足りない」[2. 東京タラレバ娘] [3. ベルサイユのばら] [4. 私がもててどうすんだ] [5. 月刊少女野崎くん]であった。2016年版のオトコ編が「1. ダンジョン飯」[2. ゴールデンカムイ] [3. 黒博物館 ゴーストアンドレディ] [4. 恋は雨上がりのように] [5. 僕のヒーローアカデミア]で、オンナ編が「1. ヲタクに恋は難しい」[2. 東京タラレバ娘] [3. 町田くんの世界] [4. 塩田先生と雨井ちゃん] [5. 宇宙を駆けるよだか]であった。2017年版のオトコ編が「1. 中間管理録トネガワ」[2. 私の少年] [3. ファイアパンチ] [4. パンティストッキングのような空の下] [5. ゴールデンゴールド]で、オンナ編が「1. 金の国水の国」[2. 春の呪い] [3. さびしすぎてレズ風俗に行きましたレポ] [4. 深夜のダメ恋凶鑑] [5. 椿町ロンリープラネット]であった。毎年のように話題となる作品が異なっていることは、それだけ作品が創り出されているということであり、それが出版されていて、読まれているということである。これだけ世の中に、「マンガ」が溢れていけば、見ないという選択は難しいことかもしれない。

「アニメ」については、「このマンガがすごい」で挙げた50作品のうち、アニメ化・映像化されたものやされる計画のあるものを見ると傾向が見えるであろう。13年版では「テラフォーマーズ」「ハイキュー」「銀の匙」「俺物語」「きょうは会社休みます」が、14年版では「暗殺教室」「亜人」「重版出来」「七つの大罪」「ときめきトゥナイト」が、15年版では「聲の形」「ベルサイユのばら」「月刊少女野崎くん」が、16年版では「ぼくのヒー

ローアカデミア」「東京タラレバ娘」がアニメ化・映像化されている。さらに小説のアニメ化も行われ、そのコミカライズによって「マンガ」としての作品もできている。それを象徴する今年の例は「君の名は」であろう。「アニメ」も「マンガ」も主として視覚情報が中心であるが、「マンガ」が静止画であるのに対して、「アニメ」は動画である点で読み手に大きな影響を与えていると思われる。これが今日の教育場面で多く取り入れられている要因であろう。

「活字離れ」は、若者たちだけでなく全ての人たちに起こっていると思われる。前述した「マンガ」の出版量と作品量、「アニメ」の作品量などに加えて、スマートフォンやタブレットなどの電子機器の発達により、さらに助長されてきているように思われる。しかし、本として持っていないとも、電子媒体によって所持することもできるわけであるから、単なる活字離れとは言えないかもしれない。電子機器の使用方法についても考えていく必要があるかもしれない。

若者が実際に、「マンガ」「アニメ」「活字本」に対して、どのような態度を示しているのかを2013年より調査を行ってきた。2013年の調査（小池、2014）では、大学生・短大生に「マンガ」「アニメ」「活字本」のそれぞれについて「読む（見る）のが好きか」「好きな作品があるか」「好きな作家がいるか」「好きな単行本があるか」「好きな雑誌があるか」「雑誌を毎週読んでいるか」「活字本を月に1冊以上読むか」を5段階で評定（1：全く当てはまらない～5：とても当てはまる）するよう求め、さらに「過去3年間で読んだものの題名を3つあげてください」と尋ねた。その結果、「マンガを読むのが好き」の平均評定（SD）は3.77（1.29）、「アニメを見るのが好き」の平均評定（SD）は3.35（1.32）、「活字本を読むのが好き」の平均評定（SD）は2.91（1.32）であった。大学・短大の学生は、「マンガを読む」のも「アニメを見る」のもどちらかと言えば好きであると認識し

ているが、「活字本を読む」のは好き嫌いのどちらでもないと思われていると認識していると思われた。挙げられた作品についても、「マンガ」では総反応数が1,410個、総作品数が330件であり、「アニメ」では総反応数が1,420個、総作品数が266件であり、「活字本」では総反応数が984個、総作品数が551件であった。「マンガ」と「アニメ」の作品数に60件ほど差があったが、総反応数は1,410件と1,420件とほぼ同じであること、「活字本」の総反応数が400個ほど少ないことから、「マンガを読む」ことが好きであり、「アニメを見ること」が好きであり、「活字本」を読むことは好きでも嫌いでもないことを示していると考えた。これらの調査を数年間の継続調査が必要であることも述べていた。2015年の調査（小池、2016）では、2013年と同様に大学・短大の学生が「マンガを読むこと」「アニメを見ること」「活字本を読むこと」をどれだけ好んでいると認識しているのかについて調査して、2013年度との比較を試みた。その結果は「マンガを読むのが好き」の平均評定（SD）は3.93（1.22）、「アニメを見るのが好き」の平均評定（SD）は3.41（1.32）、「活字本を読むのが好き」の平均評定（SD）は3.03（1.35）であった。これは2013年の結果よりも平均ポイントは多少高くなっているが、ほぼ同じ傾向を示していた。つまり、大学・短大の学生は、「マンガを読む」のも「アニメを見る」のもどちらかと言えば好きであると認識しているが、「活字本を読む」のはどちらとも言えないと認識していると思われた。挙げられた作品についても、「マンガ」では総反応数が3,413個、総作品数が612件であり、「アニメ」では総反応数が3,181個、総作品数が432件であり、「活字本」では総反応数が1,831個、総作品数が911件であった。2015年の調査は、2014年と2015年の2年分であるため、総反応数と総作品数が2013年に比べて倍近くになっている。「マンガ」と「アニメ」の総反応数は3,000個を超えているので、ほぼ1人あたり約

3個の作品名を出していることになる。「活字本」の総反応数は、1,800個程度であり、1人あたり1.6個と「マンガ」「アニメ」の半分程度となっている。このことから「マンガを読むこと」「アニメを見ること」が好きであり、「活字本を読むこと」はそれほど好きではないことがわかった。また、総作品数の結果から、「マンガ」も「アニメ」もある作品に集中する傾向が見られるけれども、「活字本」の方は興味が分散していることがわかった。

今回は、調査4年目で、「マンガ」「アニメ」と「活字本」の関係性についての基礎データ収集および学生の活字離れの実情を把握することを目的として行った。

2. 方法

- 1) 調査対象者：調査は、2016年の4月にT大学とI短期大学で行われた。対象学生は、600名（男性172名、女性428名）であった。平均年齢は18.74歳（SD=0.89）、男子の平均年齢は18.86歳（SD=1.03）、女子の平均年齢は18.69歳（SD=0.82）であった。
- 2) 手続き：過去2回の調査（小池、2014、2016）と同様に以下の手続きで行った。
第1部では、以下のような質問を基本として、「マンガ・アニメ・活字本」について尋ねた。
 - 1 読む（見る）のが好きである。
 - 2 好きな作品がある。
 - 3 好きな作家がいる。
 - 4 好きな1冊ものがある。
 - 5 好きな雑誌がある。
 - 6 毎週読んでいる（見ている）。

質問はそれぞれについて6つずつ、全部で以下の通りの18問となる。

- 質問①マンガを読むのが好きである。
- 質問②好きなマンガの作品がある。
- 質問③好きなマンガの作家がいる。

質問④好きなマンガ本（単行本）がある。
 質問⑤好きなマンガ雑誌がある。
 質問⑥マンガ雑誌を毎週読んでいる。
 質問⑦アニメを見るのが好きである。
 質問⑧好きなアニメの作品がある。
 質問⑨好きなアニメの作家がいる。
 質問⑩好きなアニメ本（単行本）がある。
 質問⑪好きなアニメ雑誌がある。
 質問⑫アニメ雑誌を毎週読んでいる。
 質問⑬活字本を読むのが好きである。
 質問⑭好きな活字本の作品がある。
 質問⑮好きな活字本の作家がいる。
 質問⑯好きな活字本雑誌がある。
 質問⑰活字本雑誌を毎週読んでいる。
 質問⑱活字本を月に1冊以上読む。

これらの質問に、自分自身がどれだけあてはまる

かを「1：まったくあてはまらない」「2：あまりあてはまらない」「3：どちらともいえない」「4：かなりあてはまる」「5：とてもあてはまる」の5段階で評定をしてもらった。

第2部は、「マンガ・アニメ・活字本」それぞれについて、「過去3年間で読んだものの題名と作者を5つあげてください」として、作品名と作者を書いてもらった。

調査は、それぞれの大学・短期大学において、4月の第1回目の授業時に行った。

3. 結果と考察

第1部のアンケート調査の評定結果は、表1のようになった。

表1 質問項目ごとの全体・男女別の平均と標準偏差（SD）

		全体			男性			女性		
		M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N
マンガ	Q1	3.83	1.29	600	4.16	1.12	172	3.70	1.33	428
	Q2	3.83	1.41	600	4.31	1.08	172	3.63	1.48	428
	Q3	2.89	1.51	600	3.16	1.44	172	2.78	1.53	428
	Q4	3.58	1.54	600	4.16	1.20	172	3.35	1.59	428
	Q5	2.44	1.47	600	3.10	1.50	172	2.18	1.37	428
	Q6	1.83	1.36	600	2.49	1.66	172	1.56	1.12	428
アニメ	Q7	3.58	1.30	600	3.92	1.14	172	3.45	1.34	428
	Q8	3.73	1.39	600	3.98	1.21	172	3.63	1.44	428
	Q9	2.41	1.38	600	2.55	1.37	172	2.35	1.38	428
	Q10	2.29	1.46	600	2.67	1.48	172	2.13	1.43	428
	Q11	1.67	1.12	600	1.86	1.19	172	1.60	1.08	428
	Q12	1.40	0.89	600	1.57	1.04	172	1.32	0.82	428
活字本	Q13	3.13	1.38	600	3.33	1.35	172	3.05	1.38	428
	Q14	3.10	1.54	600	3.27	1.49	172	3.03	1.55	428
	Q15	2.81	1.54	600	2.98	1.49	172	2.74	1.55	428
	Q16	1.61	0.98	600	1.66	1.00	172	1.59	0.97	428
	Q17	1.34	0.79	600	1.41	0.83	172	1.31	0.78	428
	Q18	2.18	1.37	600	2.38	1.41	172	2.10	1.34	428
年齢		18.74	0.89	600	18.86	1.03	172	18.69	0.82	428

各質問項目の平均評定ポイントについて、全体で見えてきた。

「マンガ」については、①「マンガを読むのが好きだ」は3.83、②「好きなマンガの作品がある」は3.83、③「好きなマンガの作家がいる」は2.89、④「好きなマンガ本（単行本）がある」は3.58、⑤「好きなマンガ雑誌がある」は2.44、⑥「マンガ雑誌を毎週読んでいます」は1.83であった。「好き」という評価と考えられる3ポイントより高い評価をされているのは、①「読むのが好きだ」、②「好きな作品がある」④「好きなマンガ本（単行本）がある」の3つであった。これらのことは、大学・短大の学生が「マンガを読むのが好きであり、好きな作品があり、好きなマンガの単行本がある」ことを示している。さらに「好きな作品やマンガ本はあるけれども、その作家が好きだということではなく、その作品が好きなのだ」ということ、「マンガを読むのは好きであるが、雑誌を毎週購入して読むほどではない」ことを示していると思われる。また最近では、スマートフォンのアプリケーションとして、マンガの配信が行われているので、それで読んでいるのかもしれない。これは今後の調査対象として考えなければならぬと思われる。

「アニメ」については、⑦「アニメを見るのが好きである」は3.58、⑧「好きなアニメの作品がある」は3.73、⑨「好きなアニメの作家がいる」は2.41、⑩「好きなアニメ本（単行本）がある」は2.29、⑪「好きなアニメ雑誌がある」は1.67、⑫「アニメ雑誌を毎週読んでいます」は1.40であった。3ポイントより高い評価は、⑦「アニメを見るのが好きである」と⑧「好きなアニメの作品がある」の2つであった。このことは、大学・短大の学生が「アニメを見るのが好きであり、好きな作品がある」ことを示している。「アニメ」においても「マンガ」と同様に、「アニメを見るのは好きだし、好きな作品はあるけれども、その作家やアニメ単行本ではなく、その作品をアニメー

ションとして見るのが好きであること」を示していると思われる。「アニメ」に関する雑誌については、それほど興味や関心がないと推測される。

「活字本」については、⑬「活字本を読むのが好きである」は3.13、⑭「好きな活字本の作品がある」は3.10、⑮「好きな活字本の作家がいる」は2.81、⑯「好きな活字本雑誌がある」は1.61、⑰「活字本雑誌を毎週読んでいます」は1.34、⑱「活字本を月に1冊以上読む」は2.18であった。3ポイントより高い評価は、⑬「活字本を読むのが好きである」と⑭「好きな活字本の作品がある」の2つであった。このことは、大学・短大の学生が「かつ本を読むのがどちらかと言えば好きであり、好きな作品がある」ことを示している。さらに「好きな作家はどちらかと言えばいなくて、好きな活字雑誌はないから、毎週読むこともない」「月に1冊のペースで活字本を読むこともあまりない」と推測される。

以上のことから、大学・短大の学生は、「マンガを読むこと」「アニメを見ること」は好きであり、「好きな作品がある」ことがわかった。活字本に対しても「マンガ」「アニメ」と同じではないが「どちらかと言えば好きであること、好きな作品がある」ことがわかった。しかし、「マンガ」「アニメ」「活字本」に関する雑誌を毎週読んでいますかというところでもないことがわかった。これらのことをまとめてみると、大学・短大の学生は、「マンガを読むこと」「アニメを見ること」「活字本を読むこと」のいずれも「好き」であり、「好きな作品がある」ものの、「習慣的に見たり読んだりすることは少ない」ということが言えそうである。

次に、男女別で見ると、女性の場合では、「マンガ」については、①「マンガを読むのが好きだ」が3.70、②「好きなマンガの作品がある」が3.63、③「好きなマンガの作家がいる」が2.78、④「好きなマンガ本（単行本）がある」が3.35、⑤「好きなマンガ雑誌がある」が2.18、⑥「マン

ガ雑誌を毎週読んでいる」が1.56であった。3ポイントより高い評価は、①「マンガを読むのが好きだ」、②「好きなマンガの作品がある」と④「好きなマンガ本（単行本）がある」の3つであった。質問の③、⑤、⑥のポイントも全体の評価よりも低いがほぼ同様の結果となっていたので、全体の結果と同じことが言えるであろう。つまり「マンガを読むのが好きで好きな作品があるが、その作家ではなく、その作品が好きであることと毎週欠かさず読むことは少ない」ということである。

「アニメ」については、⑦「アニメを見るのが好きである」が3.45、⑧「好きなアニメの作品がある」が3.63、⑨「好きなアニメの作家がいる」が2.35、⑩「好きなアニメ本（単行本）がある」が2.13、⑪「好きなアニメ雑誌がある」が1.60、⑫「アニメ雑誌を毎週読んでいる」が1.32であった。3ポイントより高い評価は、⑦「アニメを見るのが好きである」と⑧「好きなアニメの作品がある」の2つであった。この結果とその他の質問の評価結果も「マンガ」と同様の結果である。つまり「アニメを見るのは好きだし、好きな作品はあるけれども、その作家やアニメ単行本ではなく、その作品をアニメーションとして見るのが好きであること」を示しており、「アニメ」に関する雑誌については、それほど興味や関心がないと言えるであろう。

「活字本」についての質問を見ると、⑬「活字本を読むのが好きである」が3.05、⑭「好きな活字本の作品がある」が3.03、⑮「好きな活字本の作家がいる」2.74、⑯「好きな活字本雑誌がある」が1.59、⑰「活字本雑誌を毎週読んでいる」が1.31、⑱「活字本を月に1冊以上読む」が2.10であった。3ポイントより高い評価は、⑬「活字本を読むのが好きである」と⑭「好きな活字本の作品がある」の2つであった。評価ポイントは3.05と3.03でほとんど3ポイントと変わらないため、「好き」というよりも「どちらかと言えば好き」と考えた方がよいかもしれない。そして、この結果と他の

質問の評価結果も「マンガ」「アニメ」と同様に全体の結果と同じである。つまり「活字本を読むことはどちらかと言うと好きであり、どちらかと言うと好きな作品もあるが、好きな作家がいるわけではない」、「好きな活字雑誌はないから、毎週読むことはなく、月に1冊のペースで読むこともあまりない」ということが言える。

以上のことから、全体の結果から考えられるものとほとんど同じことが女子大学生・女子短大生について言えるであろう。

男性の場合を見てみると、「マンガ」については、①「マンガを読むのが好きだ」が4.16、②「好きなマンガの作品がある」が4.31、③「好きなマンガの作家がいる」が3.16、④「好きなマンガ本（単行本）がある」が4.16、⑤「好きなマンガ雑誌がある」が3.10、⑥「マンガ雑誌を毎週読んでいる」2.49であった。3ポイントより高い評価は、①「読むのが好きだ」、②「好きな作品がある」、③「好きなマンガの作家がいる」、④「好きな本（単行本）がある」⑤「好きなマンガ雑誌がある」の5つであった。男性は、全体と女性とは異なり、③と⑤の質問でも3ポイントより高い評価をしていた。この結果は、大学・短大の学生全体と女子学生の傾向は同様であるが、それに③と⑤内容が加わるので、「マンガを読むのが好きで、好きなマンガ作品があり、好きなマンガ作家がいて、好きなマンガ本（単行本）があり、好きなマンガ雑誌があるが、毎週読むことはしていない」という傾向を示している。「マンガを大好きである」と結論してもよいかもしれない。

「アニメ」については、⑦「アニメを見るのが好きである」が3.92、⑧「好きなアニメの作品がある」が3.98、⑨「好きなアニメの作家がいる」が2.55、⑩「好きなアニメ本（単行本）がある」が2.67、⑪「好きなアニメ雑誌がある」が1.86、⑫「アニメ雑誌を毎週読んでいる」が1.57であった。3ポイントより高い評価は、⑦「アニメを見るのが好き」と⑧「好きなアニメの作品がある」

の2つであり、全体および女性と同じ結果であった。つまり「アニメを見るのが好きで、好きな作品もあるが、その作家やアニメ本ではなく、作品を見るのが好きなことと、アニメ雑誌にはそれほど関心興味がない」ということである。

「活字本」については、⑬「活字本を読むのが好きである」が3.33、⑭「好きな活字本の作品がある」が3.27、⑮「好きな活字本の作者がいる」が2.98、⑯「好きな活字本雑誌がある」が1.66、⑰「活字本雑誌を毎週読んでいる」が1.41、⑱「活字本を月に1冊以上読む」が2.38であった。3ポイントより高い評価は、「アニメ」と同様に全体および女性と同じで、⑬「活字本を読むのが好きである」と⑭「好きな活字本の作品がある」の2つであった。男性のポイントを見ると全ての質問で全体および女性よりも高い評価ポイントとなっていることから、男子学生は女子学生よりも「活字本を読むのが好きで好きな作品があるが、好きな作者がいるわけでもなく、好きな活字雑誌もないので毎週読むこともない、また月に1冊のペースで読むことも少ない」と言えるであろう。

以上のことから、大学生・短大生は男女を問わず、「マンガを読むことが好き」であり、「アニメを見るのが好き」でもあり、「活字本を読むことがどちらかと言えば好き」であることがわかる。そして「マンガ」「アニメ」「活字本」に好きな作品があることもわかった。「好きな作家がいる」に関しては、「マンガ」で男子学生だけがどちらかと言えばそうであると答えていたので、いずれにおいても「好きな作品」はあるけれども、その作品そのものが好きなのだと考えられる。それぞれに関わる雑誌についても、「マンガ」で男子学生だけがどちらかと言えば好きな雑誌があると答えてただけで、その他ではあまり興味関心がないことがうかがえ、そのことから毎週読むことが少ないのであろう。これらのことから、活字を読むことはどちらかと言えば好きであるが、雑誌はあまり読まないことや活字本を月1冊のペース

で読まないことなどは、活字離れの一端を表現しているものと考えられる。

前回の報告（小池、2016）の結果と比較してみると、「マンガ」に関しては、全体では質問①から⑤で評価ポイントが0.05～0.18ポイント減少し、質問⑥は0.04ポイントが増加していた。男性では質問②で変化がなく、質問①③④⑤⑥で0.02～0.08ポイント減少していた。女性では質問①から④で0.08～0.17ポイント減少し、質問⑤と⑥で0.01、0.09ポイント上昇していた。「アニメ」に関しては、全体では質問⑦から⑩で0.07～0.17ポイント増加し、質問⑪と⑫で0.04、0.03ポイント減少した。男性では質問⑦⑧⑪⑫で0.11～0.35ポイント減少し、質問⑨⑩で0.06、0.14ポイント上昇していた。女性では全ての質問で0.02～0.15ポイント上昇していた。「活字本」に関しては、全体では質問⑬⑭⑮⑱で0.04～0.16ポイント上昇し、質問⑯⑰で0.02、0.05ポイント減少していた。男性では全ての質問で0.02～0.25ポイント減少していた。女性は男性と反対に全ての質問で0.01～0.20ポイント上昇していた。

前々回の報告（小池、2014）の結果と比較してみると、「マンガ」に関しては、全体では質問①③⑤⑥で評価ポイントが0.03～0.07上昇し、質問②④で0.02、0.06ポイント減少していた。男性では全ての質問で0.06～0.15ポイント上昇していた。女性では質問①⑤⑥で0.01～0.04ポイント上昇し、質問②③④で0.02～0.10ポイント減少していた。「アニメ」に関しては、全体では全ての質問で0.01～0.31ポイント上昇していた。男性でも全ての質問で0.09～0.53ポイント上昇していた。女性も質問⑫を除いて0.06～0.27ポイント上昇し、質問⑥で0.03ポイント減少していた。「活字本」に関して、全体では質問⑰を除いて0.01～0.22ポイント上昇し、質問⑰で0.01ポイント減少していた。男性では質問⑬⑭⑮⑱で0.09～0.30ポイント上昇し、質問⑯⑰で0.18、0.10ポイント減少していた。女性では全ての質問で0.02～0.27ポイント上昇して

いた。

以上のことから、「マンガ」に関しては、全体的に見ても、男女別に見ても、前回よりもマンガを読むことへの興味が多少減少してきていることが、前々回よりも多少増加していることがわかる。前回の調査報告は2014年度と2015年度のデータを合わせて分析しているため、各年度ごとに見てみると経年ごとの変化が見られるかもしれない。これは「アニメ」と「活字本」についても同じことが言える。来年に調査をすると5年間の継続データが得られるので、そこで検討する予定にしておく。「アニメ」に関しては、前々回よりも前回の方が、前回よりも今回の方がポイントが増加している点から、アニメを見ることへの興味が増加してきていると言えそうである。これは「マンガ」や「活字本」のアニメーション化が大きく影響をしていると思われる。最近も数々のアニメーション作品が発表されているが、そのほとんどに原作本が「マンガ」や「活字本」に存在することからも、その傾向がうかがえる。「活字本」に関しては、全体と女性の結果を見ると、前々回、前回よりもポイントが上がっているが、男性では反対にポイントが下がっている。これは、調査対象の数のバランスの問題を反映していると思われる。つまり女性の方が活字本への興味が増しているために、全体的にもポイントが増加したと考えられる。この傾向を維持するために何らかの対策を何か考えておく必要があると思われる。男性のポイントは、前回よりも全てにおいて減少して、前回よりも一段と活字離れが進んでいるように思われるが、前々回と比較してみると、高くなっているものもあれば、低くなっているものもあるので、一概に言い切れないかもしれない。しかし、変化が見られないことは活字離れ自体が止まっていることにはならないから、これに対する対策も考える必要がある。例えば、現在も行われていることであるが、話題になっている「マンガ」や「アニメ」の活字化を勧めるのも一つの対策と考えられ

る。さらに活字に触れさせる時間をどのように増やしていくのかも考えていく必要がある。幼児期から児童期にかけての「読み聞かせ」などを増やすことが、活字本に興味を持たせるのにどれほどの効果や影響があるのかを調査する必要もあると思われる。これは今後の課題として挙げられるであろう。

第2部のアンケート調査結果の一部を表2～表4に示す。表2は、反応数が上位15位までの「マンガ作品の題名と反応数」を示している。

「マンガ」についてしてみると、全体で上げられた作品数（以下総反応数とする）は1,764個で、実際の作品数（以下総作品数とする）は449作品であった。調査対象者が600人であるから、一人が平均2.94作品を挙げている。上位15作品で反応率は37.4%と全体の3分の1強を占めている。第1位の「アオハライド」は、前回の調査（小池、2016）では第2位、前々回の調査（小池、2014）では第8位だった。どちらでもベストテンに入っており、その人気は衰えることなく続いていると考えられる。第2位の「ワンピース」は、前回、前々

表2 マンガ作品の題名と反応数

No.	題名	反応数	反応率(%)
1	アオハライド	87	4.93
2	ワンピース	84	4.76
3	Orange	67	3.80
4	ストロボエッジ	48	2.71
5	ナルト	47	2.66
6	ハイキュー	45	2.55
7	進撃の巨人	41	2.32
8	銀魂	37	2.10
9	君に届け	31	1.76
10	黒子のバスケ	31	1.76
11	ダイヤのA	30	1.70
12	名探偵コナン	29	1.64
13	東京喰種	28	1.59
14	メジャー	28	1.59
15	スラムダンク	27	1.53
総反応数		1,764	
総作品数		449	

回とも第1位であり、これも「アオハライド」と同じく人気は続いていることがわかる。前回、前々回では挙げられていなくて、今回挙げられているものは、第3位の「Orange」、第13位の「東京喰種」の二つであった。反対に、前回、前々回で挙げられていたけど、今回は挙げられなかったものは、「君に届け」、「今日、恋をはじめます」の二つであった。「Orange」と「東京喰種」以外の作品は、「アオハライド」「ワンピース」と同様に人気が続いている作品である。これには、作品がいまだに連載されていることと、作品の実写化やアニメ化を含めた「映像化」が大きく影響しているものと考えられる。実際、上位15位のマンガ作品は「アニメ化」されていることもあり、相乗効果をもたらしていることが考えられる。

表3は、反応数が上位15位までの「アニメ作品の題名と反応数」を示している。

「アニメ」についてしてみると、総反応数は1,914個で、総作品数は341作品であった。調査対象者が600人であるから、一人が平均3.19作品を挙げている。上位15作品で反応率は39.6%を占め

表3 最近見たアニメ作品の反応数

No.	題名	反応数	反応率(%)
1	名探偵コナン	84	4.39
2	ドラえもん	75	3.92
3	クレヨンしんちゃん	73	3.81
4	ワンピース	68	3.55
5	サザエさん	61	3.19
6	銀魂	59	3.08
7	塔の上のラプンツェル	49	2.56
8	ハイキュー	49	2.56
9	ちびまる子ちゃん	48	2.51
10	おそ松さん	39	2.04
11	アナと雪の女王	34	1.78
12	トイストーリー	33	1.72
13	アンパンマン	30	1.57
14	メジャー	28	1.46
15	モンスターズインク	28	1.46
総反応数		1,914	
総作品数		341	

ている。総反応数は「マンガ」よりも多く、総作品数は「マンガ」よりも少ないことから、特定の作品に集中していることがわかる。第1位の「名探偵コナン」は前回が第3位、前々回が第2位、第2位の「ドラえもん」は前回が第2位、前々回が第3位、第3位の「クレヨンしんちゃん」は前回が第4位、前々回が第6位、第4位の「ワンピース」は前回、前々回とも第1位、第5位の「サザエさん」は前回が第5位、前々回が第4位と、いずれも上位を占めていた。アニメ作品の定番と言えるであろう。子どもの頃から放映されていた番組でもあり、長く見続けられている作品といえる。第7位に「塔の上のラプンツェル」、第11位に「アナと雪の女王」、第12位に「トイストーリー」、第15位に「モンスターズインク」とディズニー映画が挙げられている。上位15位には入っていないけれども、ジブリ系のアニメ映画もいくつか挙げられている。テレビ放映されているアニメと共に、ディズニー系アニメ映画とジブリ系アニメ映画は定番と言えるであろう。

表4は、反応数が上位15位までの「活字本作

表4 最近読んだ活字本の反応数

No.	題名	反応数	反応率(%)
1	告白	24	1.97
2	図書館戦争シリーズ	24	1.97
3	植物図鑑	22	1.80
4	永遠の0	16	1.31
5	ハリーポッターシリーズ	15	1.23
6	流星の絆	15	1.23
7	神様のカルテ	14	1.15
8	スイッチを押すとき	13	1.06
9	王様ゲーム	12	0.98
10	こころ	12	0.98
11	塩の街	12	0.98
12	カラフル	11	0.90
13	プラチナデータ	11	0.90
14	星の王子さま	11	0.90
15	レインツリーの国	11	0.90
総反応数		1,221	
総作品数		641	

品の題名と反応数」を示している。

「活字本」についてしてみると、総反応数は1,221個で、総作品数は641作品であった。調査対象者が600人であるから、一人が平均2.04作品を挙げていることになる。上位15作品で反応率は17.0%を占めている。上位15作品の合計反応率が全体の2割に届かないことは、挙げられる作品が人それぞれで異なっていることが原因であると思われる。総作品数は「活字本」の方が「マンガ」「アニメ」よりも200~300ほど多い641作品なのに、総反応数は500~700ほど少なくなっている。これは同じ作品ではなく、多様な作品が読まれていることを示している。「活字本」作品に関する興味関心が拡散している傾向を示していると思われる。また、前回、前々回にも指摘していたが、今回も小説の映像化（アニメ化、映画化、ドラマ化など）が大きな影響を及ぼしていると考えられる。第1位の「告白」から第9位の「王様ゲーム」までは全て映像化されている。この映像化が読書傾向に影響を及ぼしているとするならば、活字離れを抑止する効果のある対策となるかもしれない。今回の上位5番目までは前回とほとんど同じであることと、第10位の「こころ」と第14位の「星の王子さま」も古典的名作として前回、前々回にも登場していることなどから、青年期の読書傾向はそれほど大きく変化をしていないと言える。新作は出ているであろうが、これまで読まれ続けている作品を読むことの方が多いのであろう。

全般的に、大学生・短大生は、「マンガ」を読むのが好きで、「アニメ」を見るのも好きで、活字本を読むのはどちらとも言えないが、読む「マンガ」や見る「アニメ」、読む「活字本」の傾向に大きな変化はない、と言える。

「マンガ」「アニメ」「活字本」のそれぞれについて、「読むのが好き」もしくは「見るのが好き」という質問に「とても当てはまる」「やや当てはまる」と答えた評価4以上の回答者の群（以下「好む群」とする）と「全く当てはまらない」「あま

り当てはまらない」と答えた評価2以下の回答者の群（以下「好まない群」とする）の2群に分けて、それぞれについての各作品平均反応数と他2つのものを「好むか」について分析してみた。

表5は、「マンガを読むのが好き」の質問の答えを基準として「アニメを見るのが好き」「活字本を読むのが好き」の平均評価ポイントと、「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。「マンガを読むのが好きだ」という質問に対して「当てはまる」と答えた「好む群」は600名中406名と67.7%を占めていて、平均評価ポイント（SD）は4.61（0.49）、「当てはまらない」と答えた「好まない群」は110名で18.3%、平均評価ポイントは1.56（0.50）であった。「好む群」は「好まない群」の約4倍弱であることから、大学生・短大生が「マンガを読むのが好きである」ことがわかる。「好む群」と「好まない群」の平均評価ポイントの差は3.05であり、この差は t 検定の結果有意な差が認められた（ $t=44.80$ 、 $p<0.01$ 、 $df=514$ ）。「アニメを見るのが好き」という質問への平均評価ポイント（SD）は、「好む群」が3.95（1.17）、「好まない群」が2.49（1.32）であった。平均反応数（SD）を見ると、「好む群」が3.50（1.75）、「好まない群」が2.25（1.96）であった。「活字本を読むのを好む」という質問への評価ポイントは（SD）は、「好む群」が3.43（1.32）、「好まない群」は2.23（1.27）であった。平均反応数（SD）では「好む群」が2.31（1.99）、

表5 「マンガを読むのが好き」を基準とした「アニメを見るのが好き」と「活字本を読むのが好き」の評価と反応

		マンガ(基準)		アニメ		活字本	
		問1	反応数	問7	反応数	問13	反応数
好む群	M	4.61	3.74	3.95	3.50	3.43	2.31
	SD	0.49	1.52	1.17	1.75	1.32	1.99
	N	406	1,517	406	1,420	406	936
好まない群	M	1.56	0.94	2.49	2.25	2.23	1.29
	SD	0.50	1.51	1.32	1.96	1.27	1.69
	N	110	103	110	248	110	142

「好まない群」が1.29 (1.69)であった。評価ポイントを検定した結果、有意な差が認められた(アニメ： $t=9.93$ 、 $p<0.01$ 、 $df=514$ 、活字本： $t=8.27$ 、 $p<0.01$ 、 $df=514$)。これは、「マンガを読む」ことを好む者たちは「アニメを見る」ことも、「活字本を読む」ことも「好む」ことを示して、「マンガを読む」ことを好まない者たちは、マンガほどではないが、やはりそれほど「好まない」ことを示している。

前回の結果(小池, 2016)と比べてみると、基準であるマンガの平均評価ポイントはほとんど変わっていない(「好む群」で0.02、「好まない群」で0.03ポイントの減少)。「アニメ」「活字本」のいずれにおいてもそれほどの変化は見られていない(「アニメ」の「好む群」で0.17、「好まない群」で0.14、「活字本」の「好む群」で0.12、「好まない群」で0.02ポイントの上昇)。「マンガを読むのが好き」の質問に対して、「その通り」と答えた者と、「そうではない」と答えた者の評価と、「アニメ」と「活字本」に対する態度はほとんど前回と同じであり、前述の通り、「マンガを読む」ことを好む者たちは「アニメを見る」ことも、「活字本を読む」ことも「好む」ことを示して、「マンガを読む」ことを好まない者たちは、マンガほどではないが、やはりそれほど「好まない」と言えるであろう。

表6は、「アニメを見るのが好き」の質問の答えを基準にした「マンガを読むのが好き」「活字

表6 「アニメを見るのが好き」を基準とした「マンガを読むのが好き」と「活字本を読むのが好き」の評価と反応

		マンガ(基準)		アニメ		活字本	
		問1	反応数	問7	反応数	問13	反応数
好む群	M	4.31	3.44	4.53	3.78	3.45	2.22
	SD	1.03	1.78	0.50	1.57	1.35	1.95
	N	353	1,215	353	1,336	353	784
好まない群	M	2.86	2.09	1.54	2.12	2.55	1.79
	SD	1.41	1.87	0.50	1.99	1.45	1.93
	N	130	272	130	275	130	233

本を読むのが好き」の平均評価ポイントと、「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。「アニメを見るのが好き」の質問に対して「当てはまる」と答えた「好む群」は600名中353名で58.8%を占めていて、平均評価ポイント(SD)は4.31(1.03)、「当てはまらない」と答えた「好まない群」は130名で21.7%、平均評価ポイント(SD)は1.54(0.50)であった。「好む群」は全体の約60%、「好まない群」の約2.7倍を占めていることから、大学生・短大生は「アニメを見るのが好きである」と言える。「好む群」と「好まない群」の平均評価ポイントの差は2.99であり、検定の結果有意な差が認められた($t=43.45$ 、 $p<0.01$ 、 $df=481$)。「マンガを見るのが好き」という質問への平均評価ポイント(SD)は、「好む群」が4.31(1.03)、「好まない群」が2.86(1.41)であり、平均反応数(SD)は、「好む群」が3.44(1.78)、「好まない群」が2.09(1.87)であった。「活字本を見るのが好き」という質問への平均評価ポイント(SD)は、「好む群」が3.45(1.35)、「好まない群」が2.55(1.30)であり、平均反応数(SD)は、「好む群」が2.22(1.95)、「好まない群」が1.79(1.93)であった。平均評価ポイントの検定結果、有意な差が認められた(マンガ： $t=9.94$ 、 $p<0.01$ 、 $df=481$ 、活字本： $t=6.29$ 、 $p<0.01$ 、 $df=481$)。これは、「アニメを見る」ことを好む者たちは「マンガを読む」ことも、「活字本を読む」ことも「好む」ことを示している。「アニメを見る」ことを好まない者たちの平均ポイントを見ると、「マンガ」では1.32、「活字本」では1.01高いポイントを示している。これはアニメを見るのは好きではないが、マンガや活字本を読むのはそれほどでもないことを示していると考えられる。これらの結果から、「アニメを見るのが好き」という大学生・短大生は、アニメを見るのが好きで、活字本を読むのもどちらかと言うと好きであり、「アニメを見るのが好きでない」大学生・短大生も、アニメを見るより

もマンガや活字本を読むのは好きなのであろう、ということが言えるであろう。

前回の結果（小池、2016）と比べてみると、基準となる「アニメ」の平均評価ポイントは、「好む群」で0.03ポイント上昇しているが、「好まない群」は変化していない。「マンガ」「活字本」のポイントは、「好む群」では「マンガ」で0.1、「活字本」で0.09ポイント上昇し、「好まない群」では「マンガ」で0.25減少し、「活字本」で変化がなかった。これらのことから、「アニメ」を基準とした「好む群」では、「アニメを見る」「マンガを読む」「活字本を読む」のいずれも好きであることがわかり、「好まない群」では、「マンガを読むことがどちらかと言うと好まれなくなってきた」と言えるであろう。活字本に関しては変化がなく、あまり好まれなことが続いているようである。

表7は、「活字本を読むのが好き」の質問の答えを基準にした「マンガを読むのが好き」「アニメを見るのが好き」の平均評価ポイントと、「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。「活字本を読むのが好き」の質問に対して「当てはまる」と答えた「好む群」は600名中266名で44.3%を占めていて、平均評価ポイント（SD）は4.44（0.50）、「当てはまらない」と答えた「好まない群」は192名で32%、平均評価ポイント（SD）は1.41（0.49）であった。「好む群」は前回よりも4%ほどの増加、「好まな

表7 「活字本を読むのが好き」を基準とした「アニメを見るのが好き」と「マンガを読むのが好き」の評価と反応

		マンガ(基準)		アニメ		活字本	
		問1	反応数	問7	反応数	問13	反応数
好む群	M	4.29	3.48	3.97	3.54	4.44	3.26
	SD	1.06	1.79	1.19	1.77	0.50	1.74
	N	266	925	266	942	266	866
好まない群	M	3.20	2.30	3.12	2.79	1.41	0.73
	SD	1.42	1.99	1.35	1.96	0.49	1.27
	N	192	442	192	536	192	141

い群」は前回よりも約3%の減少を示しており、その差も約12%と前回の2倍ほどになっていることから、活字本を読むことが好きな者が増えていくと思われる。この原因として考えられることの 하나가、先ほどの述べたように、映像化された作品のノベライズ化があるかもしれない。今回の結果から、「活字本を読むのが好き」な大学生・短大生が増えてきていると言ってもよいかもしれない。しかし、「好まない群」の平均評価ポイントが1.41ということ踏まえて考えると、活字本を読む者は進んで読むのだけれども、読まない者はまったく読まないという二極化現象を示しているとも言える。これは平均反応数からも見て取れる。読まない者にどのようにすれば読ませるようになるのがこれからの課題となる。「好む群」と「好まない群」の平均評価ポイントの差は3.03、検定の結果有意な差が認められた ($t=64.94, p<0.01, df=456$)。「マンガを見るのが好き」という質問への平均評価ポイント（SD）は、「好む群」が4.29（1.06）、「好まない群」が3.20（1.42）であり、平均反応数（SD）は、「好む群」が3.48（1.79）、「好まない群」が2.30（1.99）であった。「アニメを見るのが好き」という質問への平均評価ポイント（SD）は、「好む群」が3.97（1.19）、「好まない群」が3.12（1.35）であり、平均反応数（SD）は、「好む群」が3.54（1.77）、「好まない群」が2.79（1.96）であった。平均評価ポイントの検定結果、有意な差が認められた（マンガ： $t=8.98, p<0.01, df=456$ 、アニメ： $t=6.95, p<0.01, df=456$ ）。これは「活字本を読む」ことが好きな者たちは、「マンガを読む」ことも「アニメを見る」ことも「好む」ことを示している。「活字本を読む」ことを「好まない」者たちの「マンガを読むことが好き」と「アニメを見るのが好き」という平均評価ポイントはいずれも3ポイント代であることから、どちらかとも言えない、つまり好きでも嫌いでもないということかもしれない。

前回の結果（小池、2016）と比較してみると、基準となる「活字本」の平均評価ポイントは、「好む群」では0.03上昇し、「好まない群」では0.07ポイント減少している。「マンガ」「アニメ」のポイントは、「好む群」では「マンガ」で0.11、「アニメ」では0.13減少していて、「好まない群」では「マンガ」で0.20減少し、「アニメ」では0.16上昇している。「活字本を読む」ことが好きだと思う者はわずかだが増えていて、そうでない者は若干減少していると思われる。「活字本を読むのが好き」な者は、「マンガ」に関して「好む群」も「好まない群」も減少していることは、マンガとの接触が減ってきているのかもしれない。活字への接触がそうさせているのかもしれないが、さらなる検討が必要であろう。「アニメ」に関しては、「好む群」が減少し、「好まない群」が上昇したことは、「活字本を読む」のが好きでない者たちが、「アニメ」に接触することが多くなっていることを示しているのであろう。

全体的に見ると、「マンガを読むのが好き」と認めている者は、アニメを見ることはすきであり、活字本を読むこともどちらかと言うと好きであること、そうでない者は、「アニメを見る」のも「活字本を読む」のもどちらとも言えないことがわかる。「アニメを見るのが好き」と認めている者は、マンガを読むが好きであり、活字本を読むこともどちらかという好きであること、そうでない者は、「マンガを読む」のも、「活字本を読む」のもどちらとも言えないことがわかった。「活字本を読むのが好き」と認めている者は、「マンガを読む」のも「アニメを見る」のも好きであり、そうでない者は、「マンガを読む」のも、「アニメを見る」のもどちらか言えば好きであることがわかった。

前回の結果（小池、2016）と比べてみると、全体的には同様の結果が導き出されたと考えられる。大学・短大の学生は、半数から半数以上の者が

「マンガを読む」ことと「アニメを見る」ことが好きであると認めていること、「活字本を読む」ことが好きであると認めている者が約45%になったことは、大学生の活字離れが多少は緩和されてきたのかもしれない。また「マンガ」と「活字本」の関係について「マンガ好き→活字本好き」ではなく、「活字本好き→マンガ好き」と考えることが必要かもしれない。そこに「アニメ」（映像化を含む）がどのようにかわるのかをこれからも検討していく必要があると考える。

青年期の被験者だけでなく、幼児期や児童期の被験者にも同じような調査をすることで発達的な変化を見ることも必要であろう。2013年度から始めた調査が来年で5年経過することからも、一連の調査結果の経年変化を分析してみることで、詳細な状況が理解できるのかもしれない。さらなる調査研究が必要と思われる。

参考文献

1. 小池庸生 大学生における「マンガ」「アニメ」「活字の単行本」の利用状況の基本調査 育英短期大学研究紀要、第31号、p.113—123、2014
2. 小池庸生 大学生における「マンガ」「アニメ」「活字の単行本」の利用状況の基本調査 育英短期大学研究紀要、第33号、p.73—84、2016
3. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2017」宝島社、2016
4. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2016」宝島社、2015
5. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2015」宝島社、2014
6. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2014」宝島社、2013
7. このマンガがすごい！ 編集部編 「このマンガがすごい！ 2013」宝島社、2012

（2016年12月12日受理）